

教育最前線

連載 12

●栃木県立真岡工業高等学校・原付安全運転講習

安全に通学できるよう 危険を予測した運転の意識づけを図る

原付安全運転講習の内容

実技

1 乗車時の注意

実技では、まず、インストラクターがヘルメットの正しい着用や、安全な服装で走行することの重要性を説明。さらに、車両の取扱、乗り降りの際の注意点等を確認。

2 走行トレーニング



「ブレーキング」では、目標地点でしっかり止まれるように練習。インストラクターは、ブレーキをかけるタイミングや運転姿勢、視線などをチェックし、それぞれ個別にアドバイスをを行う。



「スラローム」では、運転姿勢や身体の使い方、視線などをアドバイスした。

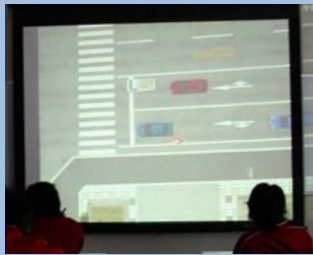
座学

3 動画KYT(二輪車編)

まず、全員が動画KYTの映像を見ながら、各自で考えられる危険を探す。

その後、どんな危険を感じたのか意見交換を行う。インストラクターは、意見交換の中で、生徒たちが気づけなかった危険があれば、こういう場面も危険だと紹介する。

さらに、動画中の危険場面の振り返り。別の視点や角度から見た図や、事故設定映像などを交えて危険場面を解説する。インストラクターは、事故を防ぐためには、どのように運転したら良いのかアドバイスをを行った。



動画KYTの中で、特に注意が必要な二輪車に多い事故事例については、詳しく状況を説明する。例えば、巻き込みの危険がある映像では、二輪車がクルマの死角に入っていることを上から見た図で説明、車体の大きなクルマの横には入らないように伝えた。



免許保有者全員が、実技と座学の講習を受講する



た。実技を通して各自の技術力の向上をはかるとともに、安全を意識して操作することを伝えて事故防止につなげる。

大小様々なカーブのあるスラロームコースの走行では、「手元ではなく、前を見て走行すると判断が早くできます」「カーブで大きくふくらむと危険。スピードをしっかりと落とし、ラインを小さくしましょう」などとインストラクターが声をかけた。実技を行った。

ポイント①

実技を通して、基本の運転技術の向上と公道での安全運転を意識させる

栃木県立真岡工業高等学校では、毎年、年度初めの時期にアクティブセーフティトレーニングパークもてぎで原付免許保有者全員を対象とした原付安全運転講習を実施している。同校では、通学距離が片道12km以上の条件を満たした生徒に原動機付自転車（以下、原付）での通学を許可している。今年の対象者は91名（2年生24名、3年生67名）おり、午前・午後

の2グループに分かれて実技と座学の講習が実施された。

ポイント②

動画KYTで危険を予測する力を養う

生徒は、教室で動画KYT（危険予測トレーニング）を体験。「今から流す映像の中から、危険だなと思う場面を探してください」とインストラクター。生徒からは、「止まっているクルマのかけからクルマが出ようとしていた」「曲がる時のスピードが速すぎる」などと、お互いの意見を共有しながら、危険を予測する能力を高める。

ポイント③

二輪の交通事故事例を学び防衛運転の意識を育む

「二輪車が直進で交差点を進行しようとした時、1台のクルマが右折してきました。その右折車が行ったので、さらに直進しようとしたところ、続けよう1台右折してきました。二輪車

の場合、こういうケースで衝突する右直事故と呼ばれる事故が目立ちます。二輪車はクルマより車体も小さく、まだ遠くにいると錯覚されたり見落とされがちです」とインストラクターが説明する。さらに、「交差点を二輪車で通行する時は、対向するクルマが曲がってくるかもしれないと考え、自分がスピードを落として走行しようというように、事故を防ぐ意識を持って運転してください」と、防衛運転の重要性を伝えた。

安全運転の意識づけが重要

同校の生徒指導部交通指導担当である村山啓太教諭は「今回の講習は、年度初めの安全運転の意識づけの機会と捉えています。本校は、工業高校なので二輪に興味を持つ生徒も多いです。とても便利な乗り物ですが、スピードに対する感覚が麻痺するなど利用する生徒の安全意識が低いと事故に直結してしまいます。専門の施設で、実技と座学の両面から事故事例や事故防止について学ぶことで生徒が安全を強く意識したと思います」と話す。

研修の申込みはHondaの交通安全センターへ。問い合わせ先は以下ホームページ参照。
<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/link/>

読者の声

ご愛読者のみなさまへ

SJに対するご意見・ご感想をお寄せください！ SJ編集部では今後の紙面づくりの参考にさせていただきます。みなさまのご意見・ご感想・ご要望を下記メールアドレスにてお待ちしております。

sj-mail@spirit.honda.co.jp

●マジオドライブインクスクール藤枝（静岡県）
管理者・松田 武さん

SJ 4・5月号のエコドライブの特集では、エコドライブ教育のさまざまな実践状況が掲載されており、たいへん参考になりました。静岡県指定自動車教習所協会でも県内の教習所の教習指導員をエコドライブインストラクターとして養成することを計画しています。当校では既に、安全運転とエコドライブをセットにした企業研修を開始しています。エコドライブを安全運転につなげていきたいという企業のニーズが高まっていくと思います。

当校では初心運転者教育だけでなく、企業ドライバー向けの研修にも力を入れています。今、企業が交通事故削減のためにどのような課題に直面しているか、またどのような安全運転教育を望んでいるのか、企業の取り組みやニーズが紹介されている記事を今後も期待しています。

●羽後自動車学校（秋田県）
副管理者・大日向 敬助さん

当校では、従来からの教習業務に加えて、子どもや高齢者など地域の方へ交通安全を伝える機会が増えてきています。教習業務とは指導内容や教え方も異なるので、SJに紹介されている、各対象者への教育手法、ノウハウを参考にしています。高校や一般企業の取り組み事例が掲載されているので、関心を持っています。

教習生には、免許取得に必要な運転技術を伝えるだけでなく、安全意識を高めてもらうことが重要で、公道での危険をいかに伝えるかが課題です。輸送ドライバー等運転のプロが感じている危険など、現場の生の声や情報が指導に役立つので、積極的に取り上げてほしいと思います。

SJホームページで「6・7月号読者アンケート」を実施中!

ホンダ SJ 検索

アンケートにご回答いただいた方の中から抽選で100名様にクオカードを進呈いたします。（締切：8月19日）
みなさまのご意見を今後の紙面づくりの参考にさせていただきます。さらなる紙面向上につなげていきたいと思っております。
ご協力をよろしくお願いいたします。